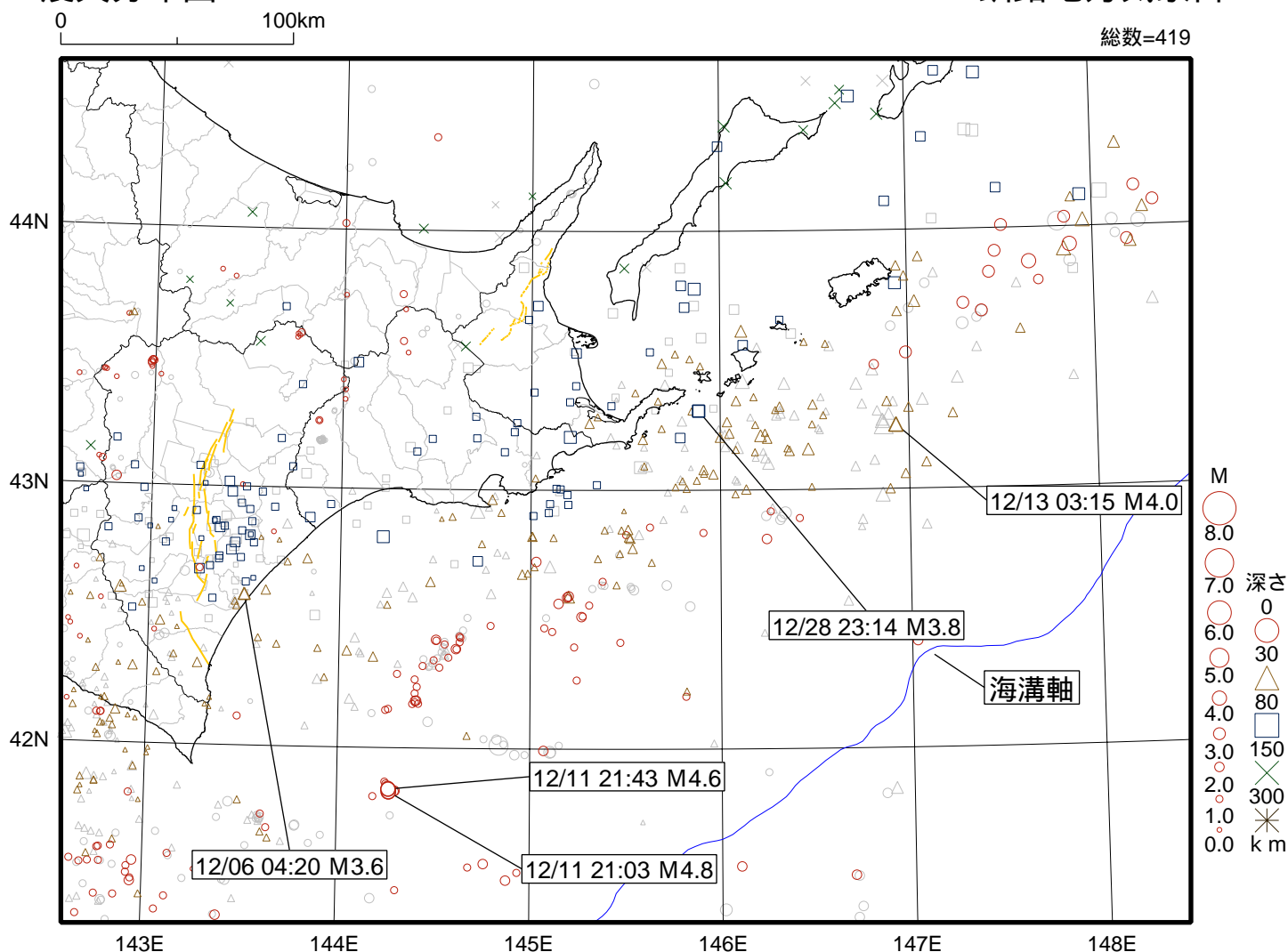


釧路・根室・十勝地方の地震活動図

2022年12月1日～2022年12月31日

震央分布図

釧路地方気象台



地震概況（2022年12月）

この期間、釧路・根室・十勝地方の震度観測点で震度1以上を観測した地震は5回(11月は11回)で主な地震は次のとおりです(詳細は「釧路・根室・十勝地方で震度1以上を観測した地震の表」を参照)。

6日04時20分、十勝地方南部を震源とする地震(M3.6、深さ70km)により、幕別町、本別町、広尾町で震度1を観測しました。

11日21時03分、十勝沖を震源とする地震(M4.8、深さ16km)により、大樹町で震度1を観測しました。また、この震源付近では同日21時43分の地震(M4.6、深さ17km)により、大樹町で震度1を観測しました。

13日03時15分、北海道東方沖を震源とする地震(M4.0、深さ47km)により、根室市で震度1を観測しました。

28日23時14分、根室半島南東沖を震源とする地震(M3.8、深さ93km)により、根室市、別海町で震度1を観測しました。

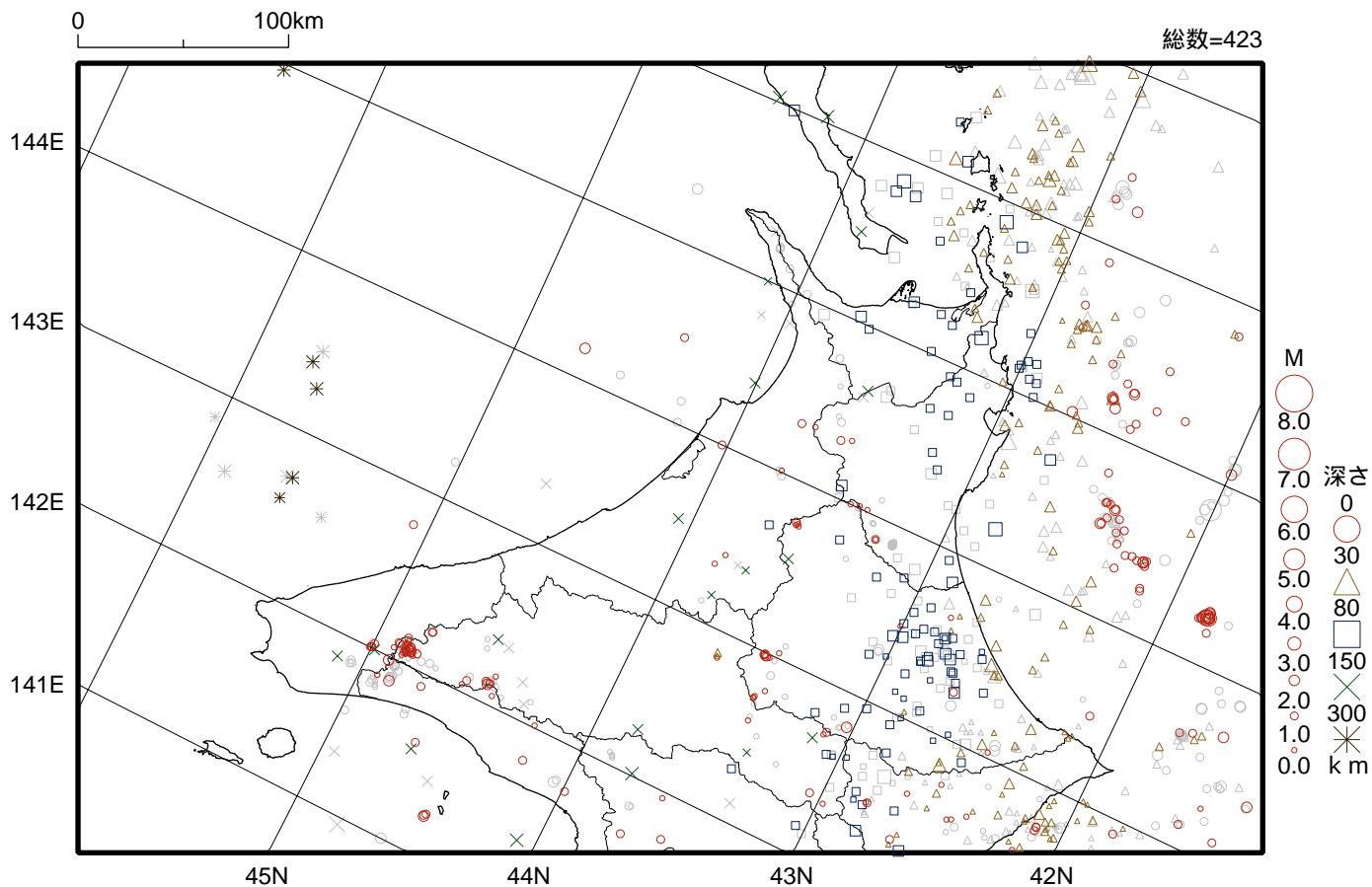
この活動図は、釧路地方気象台のホームページに掲載しています。

https://www.data.jma.go.jp/kushiro/bosai/earthquake/earthquake_data.html

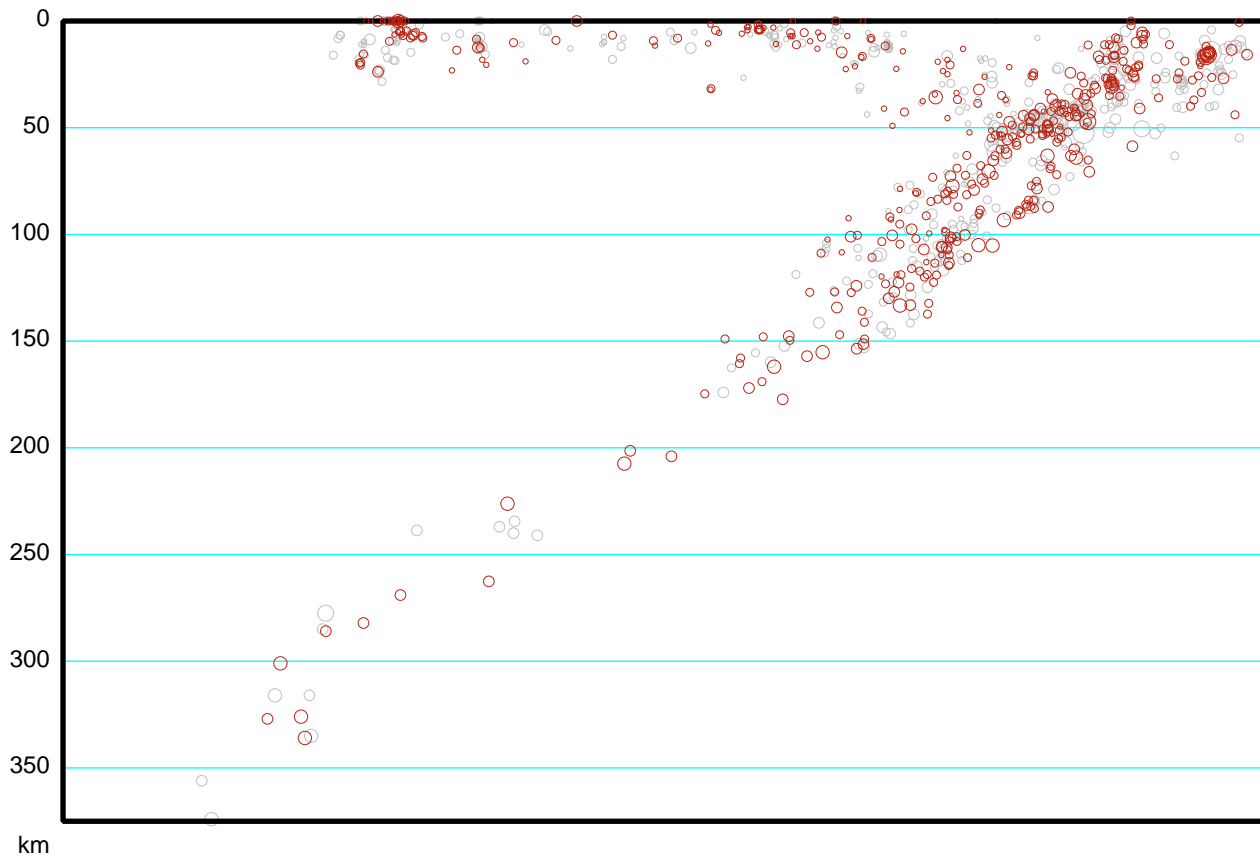
この資料に関する問い合わせ先 釧路地方気象台 TEL 0154-31-5110

2022年12月1日 ~ 2022年12月31日

震央分布図



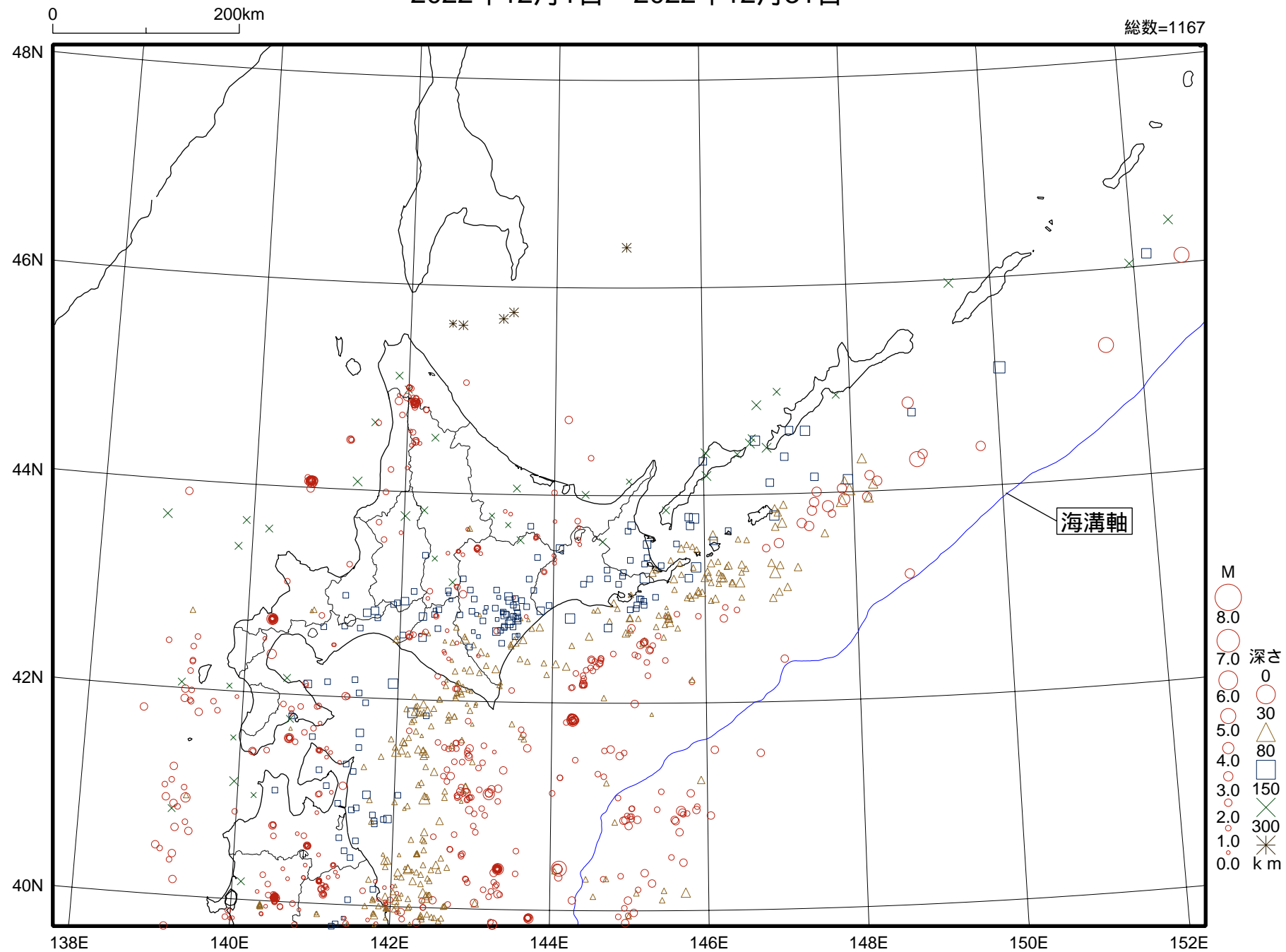
断面図



北海道の地震活動図

2022年12月1日 ~ 2022年12月31日

震央分布図



釧路・根室・十勝地方で震度1以上を観測した地震の表（2022年12月）

年 月 日 地方	時 分 震度	震央地名 震度観測点名	北緯（N）	東経（E）	深さ（km）	規模（M）
2022年12月 6日 十勝地方	04時20分 震度1	十勝地方南部 幕別町忠類錦町* (08)	42° 35.0 N	143° 29.9 E	70 km	M3.6
2022年12月11日 十勝地方	21時03分 震度1	十勝沖 十勝大樹町東本通* (06)	41° 49.7 N	144° 16.1 E	16 km	M4.8
2022年12月11日 十勝地方	21時43分 震度1	十勝沖 十勝大樹町生花* (05)	41° 50.3 N	144° 16.0 E	17 km	M4.6
2022年12月13日 根室地方	03時15分 震度1	北海道東方沖 根室市落石東* (10)	43° 14.8 N	146° 55.8 E	47 km	M4.0
2022年12月28日 根室地方	23時14分 震度1	根室半島南東沖 別海町常盤(06) 根室市牧の内* (08) 根室市瑛瑤瑁* (08)	43° 18.3 N	145° 53.1 E	93 km	M3.8

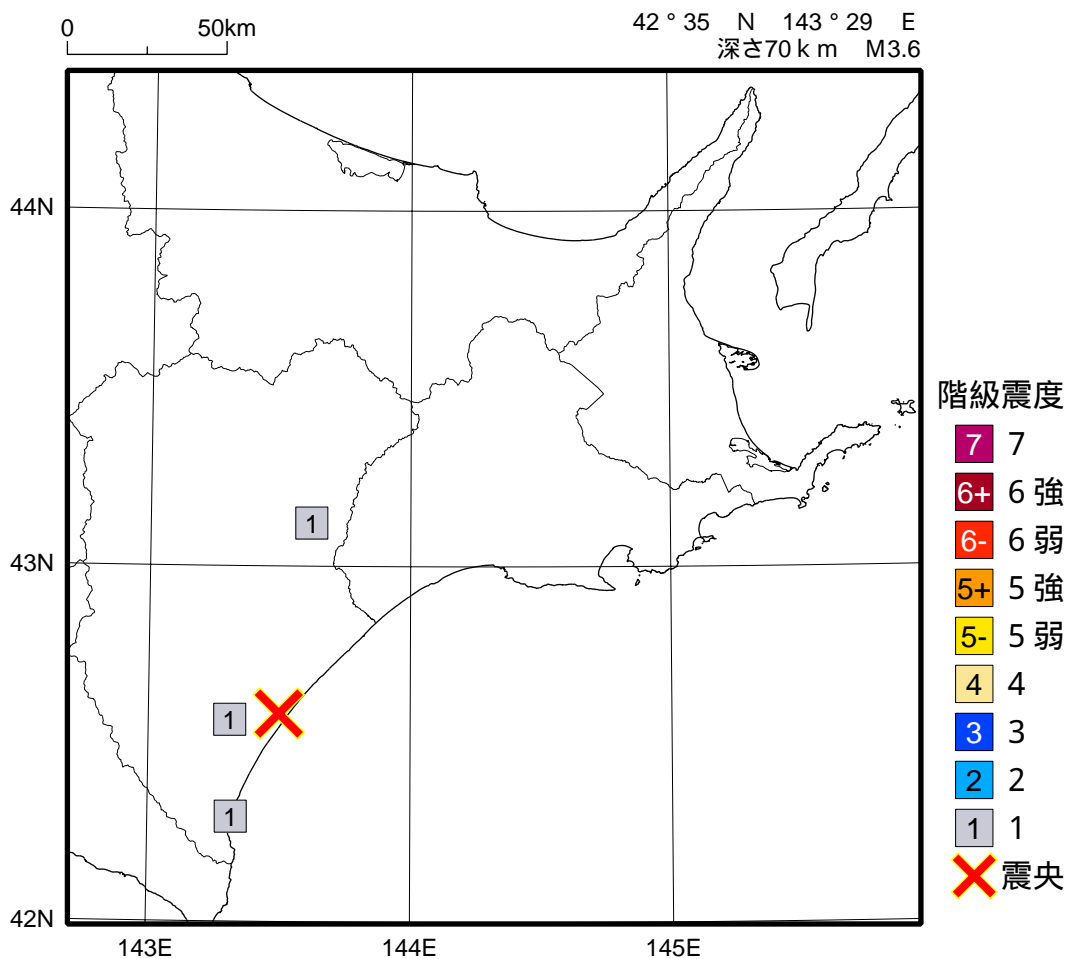
*のついている地点は地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

()内の数値は0.1単位の詳細な震度（計測震度）の小数点を省略して表しています。

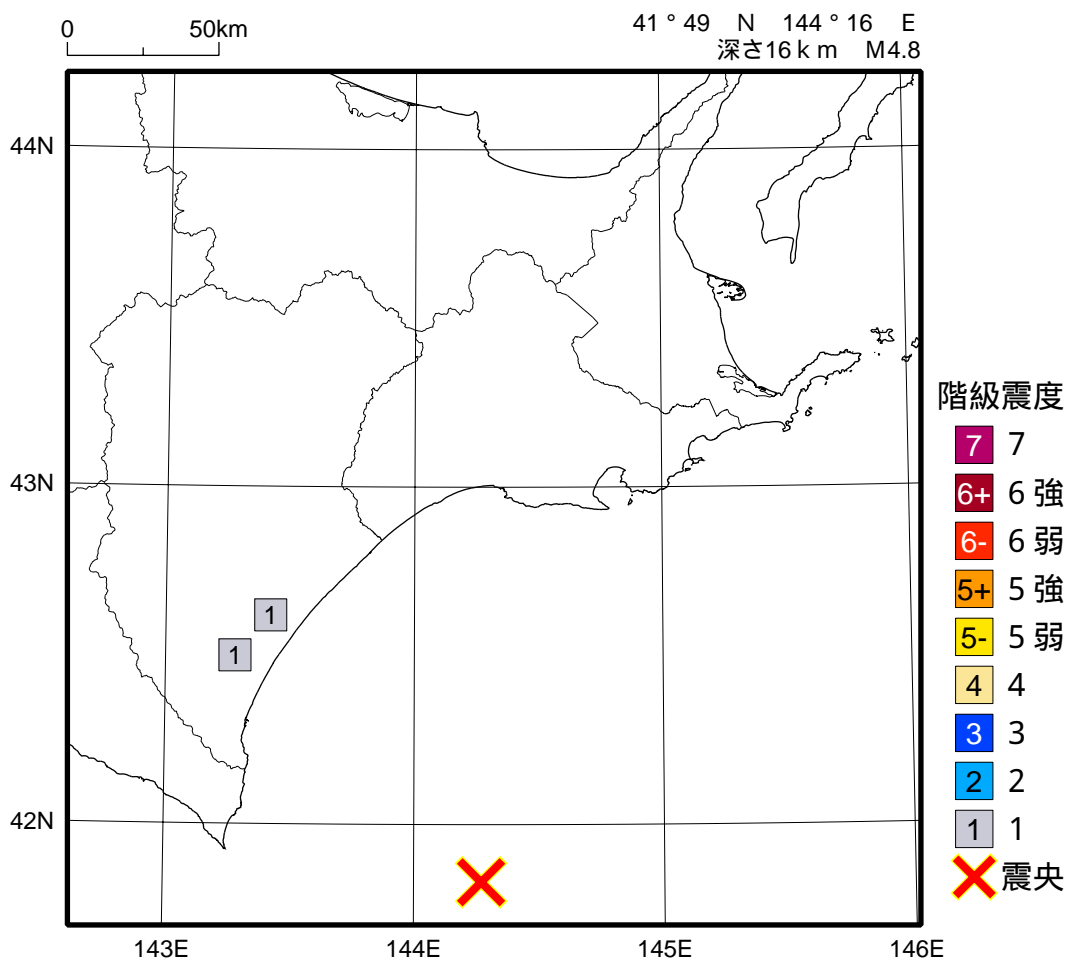
計測震度と震度階級の関係

計測震度	~0.4	0.5~1.4	1.5~2.4	2.5~3.4	3.5~4.4	4.5~4.9	5.0~5.4	5.5~5.9	6.0~6.4	6.5~
震度階級	0	1	2	3	4	5弱	5強	6弱	6強	7

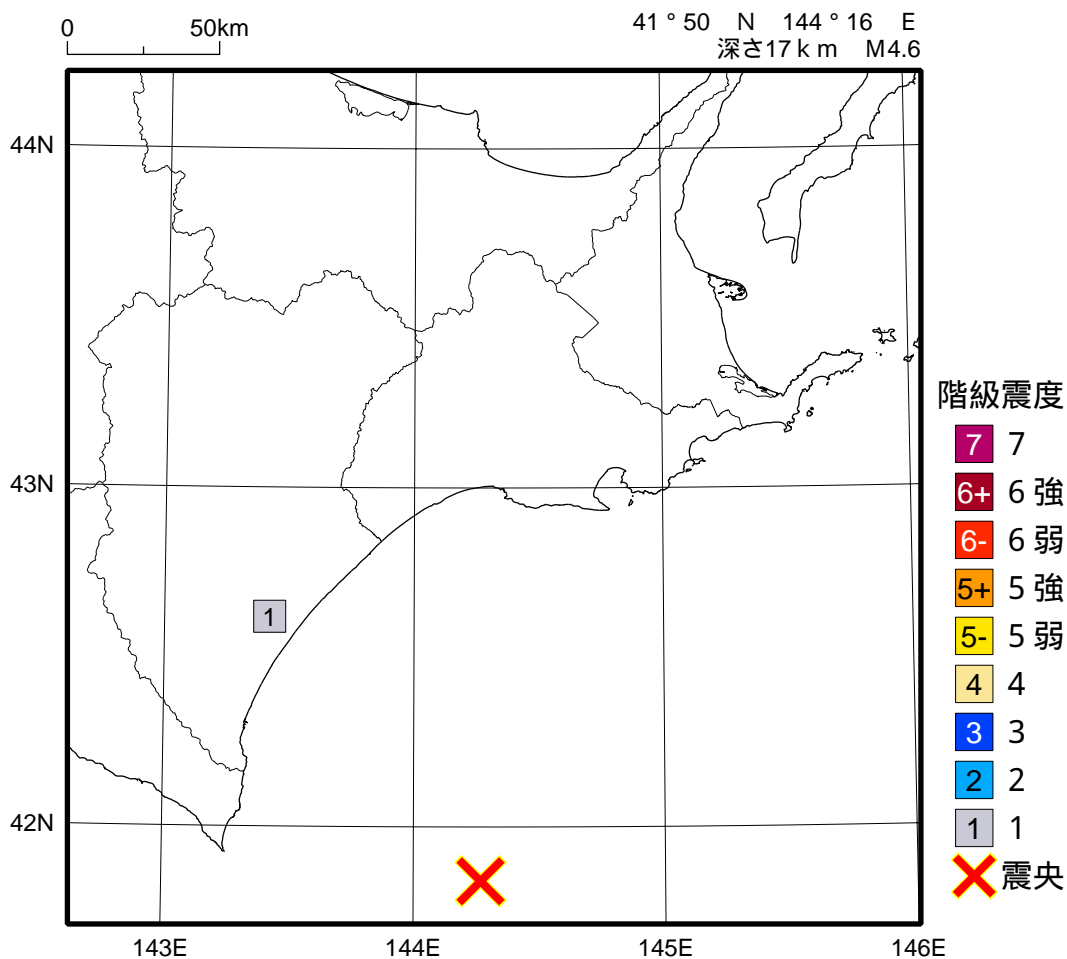
2022年12月 6日04時20分 十勝地方南部の地震の震度分布図



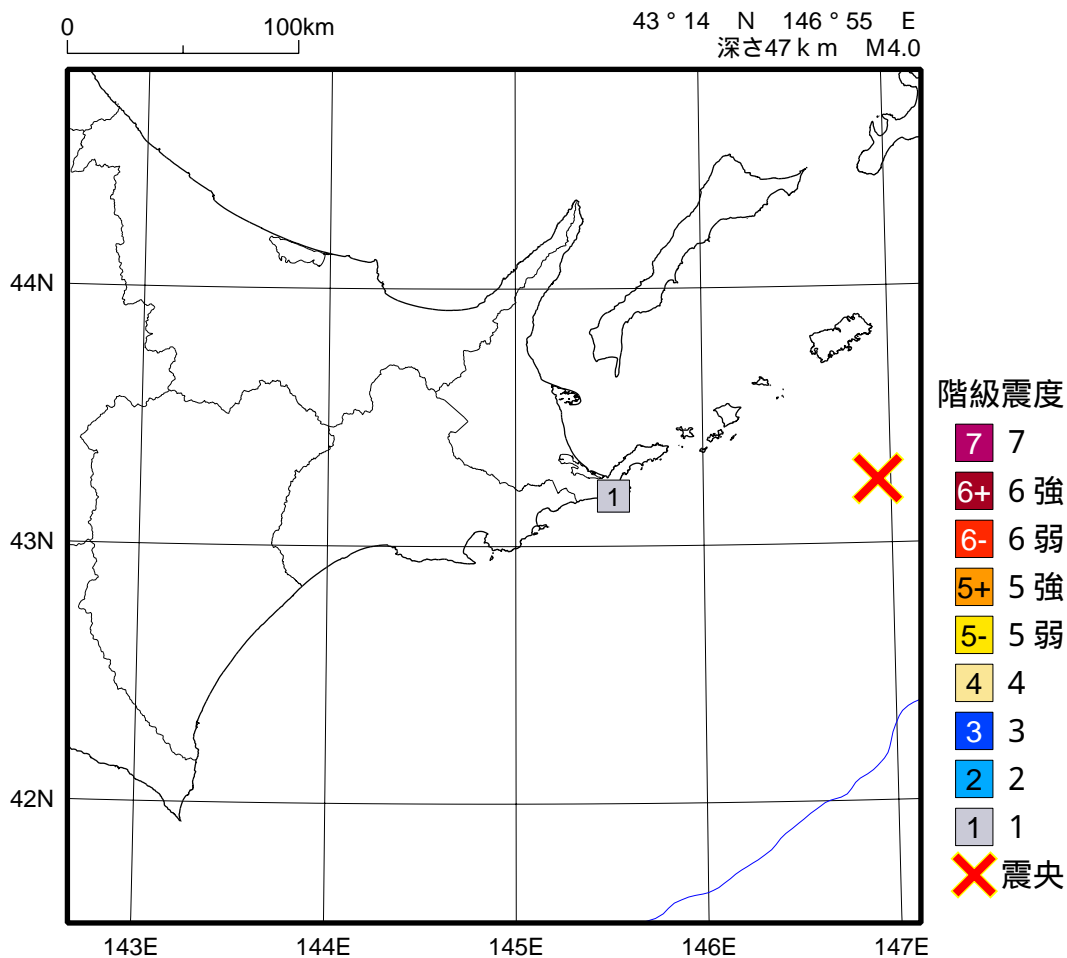
2022年12月11日21時03分 十勝沖の地震の震度分布図



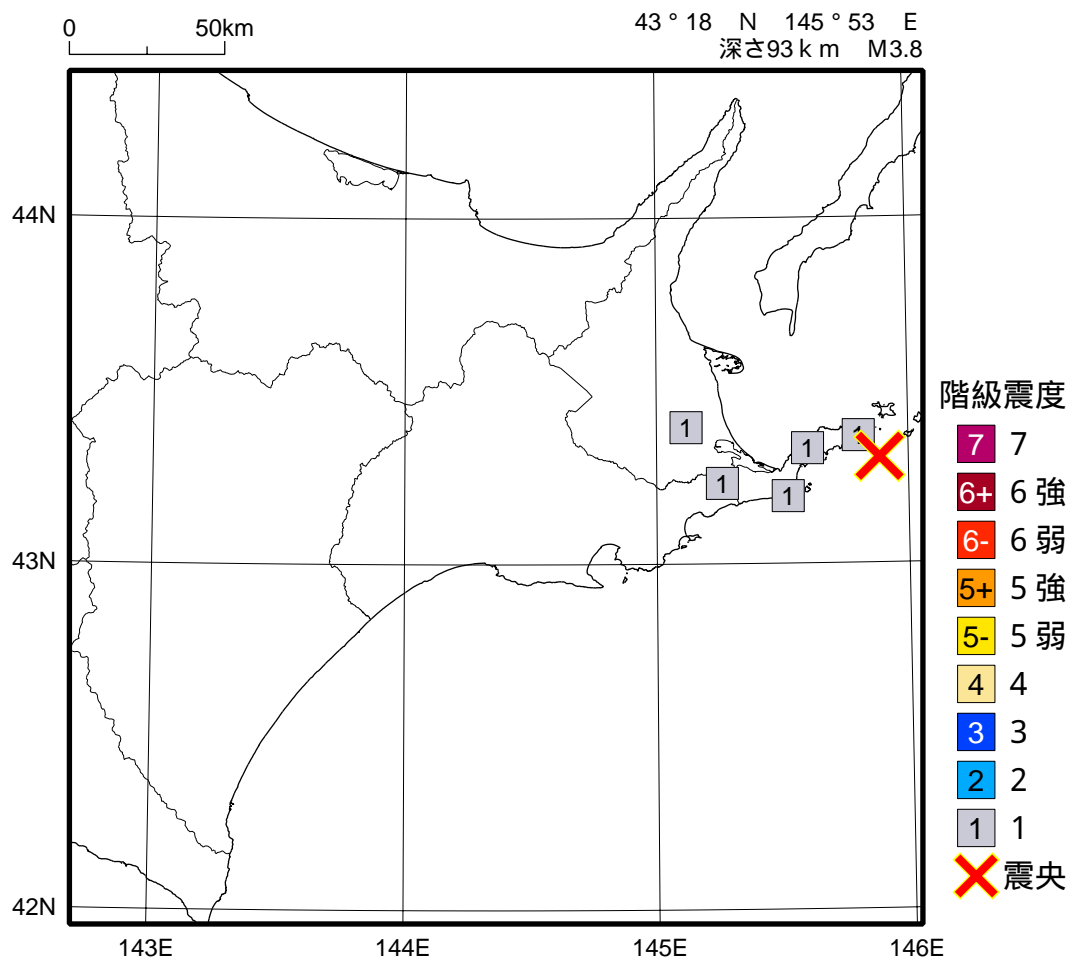
2022年12月11日21時43分 十勝沖の地震の震度分布図



2022年12月13日03時15分 北海道東方沖の地震の震度分布図



2022年12月28日23時14分 根室半島南東沖の地震の震度分布図



本資料の利用にあたって

- 本資料の震源要素及び震度データは暫定値であり、データは後日変更することがあります。
- 本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。
- 図中橙色の線は、地震調査研究推進本部が地震発生可能性の長期的な確率評価を行った主要活断層を表します。
- 過去の地震と比較するため、前3ヶ月（今期間を含まない）の震央を灰色のシンボルで表します。
- 本資料中の地図の作成にあたっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図25000（行政区・海岸線）』を使用しています（承認番号平29情使、第798号）。

【防災メモ】

～冬の大地震に備えて～

発生が切迫している日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震・大津波をはじめ、冬に大きな地震が発生した場合には、強い揺れや津波の被害に加え、雪や寒さが原因となる二次災害が起こることもあります。人的被害をできるだけ軽減するためにも、冬の大地震への備えについて、以下の点に注意しましょう。

1. 雪や凍結路に対する備え

屋根に雪が多く積もっていると、地震の揺れによる家屋の倒壊や、屋根からの落雪の可能性がより大きくなります。屋根からの落雪は人を巻き込む危険性があるほか、避難路をふさぐ原因にもなりますので、十分に注意しましょう。

地震・津波から避難する場合、冬は路面の積雪や吹雪などにより時間がかかります。避難所や避難場所までの経路を事前に確認しておきましょう。また路面が凍結していると滑りやすいため、避難の移動中に転倒して負傷する恐れがあります。そのため路面状況をよく確認し、慌てず避難しましょう。



2. 火災に対する備え

暖房器具を使用する冬場に地震が発生すると、火災のリスクが高まります。転倒時に自動停止する機能があっても、停電からの復電とともに再起動したり、配線の損傷から漏電したりして出火する通電火災に注意が必要です。暖房器具のそばには可燃物を置かないようにし、避難の際はブレーカーを切るようにしましょう。



3. 寒さへの備え

地震によって電気やガスが止まり、暖房器具が使えなくなることが考えられますので、このような時でも使用できるようなポータブルの暖房器具を用意しておきましょう。また、屋外で低体温症になるのを防ぐため、防寒着や防寒靴、毛布、カイロなどを避難時にすぐ持ち出せるようにしておくことで安心です。



4. 雪についての情報

気象庁ホームページでは「今後の雪」の情報を提供しています。このコンテンツでは、積雪の深さと降雪量の分布について、24時間前から現在までの状況及び6時間先までの予測を一体的に確認できます。

これまでの積雪と今後の雪に関する情報として、避難路の確保等にご活用ください。

「今後の雪」 <https://www.jma.go.jp/bosai/snow/>

